



12月を迎えミャンマーのエイヤーワディ地域とシュエボーでも朝夕ようやく涼しさが感じられるようになりました。晩生種でこれから最終の圃場審査が行われるところ。すでに収穫を終えた早生・中生種の圃場では、普及員が農家を巡回し、生産物審査へ供する種子のサンプルを収集し始めました。「圃場審査」と「生産物審査」をクリアした種子のみが合格証（通称Yellow Tag）を付けられ「保証種子（CS）」となりますが、今年は少しでも多くのCSが生産されるようDOAとともに取り組んでいます。

第4回普及員研修（シュエボー） シュエボーにて第4回普及員研修を実施しました（4～5日）。先月実施したエイヤーワディ地域と研修内容はほぼ同様で「圃場審査」中心。シュエボー地区の優占品種の「ポーサン・イン」は長稈で150cmほどもあり、中に入ると背の低い普及員は潜ってしまい、周りが見わたせません。まさに「木を見て森を見ず」となってしまう（写真左）。圃場審査の際には、種子担当者が司令塔となり、達観審査で気づいた注意すべき点（リスク）を普及員に伝え、見渡せる畦畔から中に入っている普及員への確かな指示を出すことが求められます。経験も長いザガイン地域種子担当者は、てきぱきと指示をだし、他の種子担当者の見本となっていました（写真中左・中右）。前作のこぼれ種の異株「Ye-90」品種を見つけ伸び上がって司令塔へ報告する（写真右）。



水分計の配布 今月はシュエボー県、モンユワ、マンダレー種子ラボへ水分計を供与。種子ラボ責任者は満面の笑顔で「これで検査が楽になる」とうれしそうでした。しっかり活用してください！

CS生産モニタリング CS生産を目指す農家も生産物審査に時間がかり過ぎれば結果を待ちきれず（CSではなく一般穀として）販売するケースが散見されます。迅速に農家へ合格証を届けるためにはDOA普及所の役割が大きい。今回エイヤーワディ地域のDOA普及所を巡回し、意見交換・指導を行いました（左）。またCS生産者とも意見交換し、農家の実情を伺いました（右）。



圃場見学会 12/6日にシュエボーにてコメ生産農家と精米業者等を対象に、CSの販売拡大を目的として、CS生産圃場と、CSを使用したコメ生産圃場の見学会を開催しました。見学会後にCS生産と流通の促進に向けた意見交換を行いました。

乾期作の準備 エイヤーワディ地域のマウンミヤ県やパテイン県では乾期作準備の真っ最中。エイヤーワディ川からの揚水灌漑で水をまかっています。（手前：トラクターで代掻き、後方：直播でイネの種まきをする農夫）

【よもやま話】ヒンタダに鉄道電化区！
エイヤーワディ地域ヒンタダ県北部の町を通過時、車窓から電気機関車を見ました。セメント工場と石灰鉱山とを繋ぐ区間のみですが、ミャンマーには鉄道電化区間が無いと思っていたのでビックリ（じつは、かつての日本の協力によるものと聞いて二度ビックリ）。



皆様、今年も大変お世話になりました。来年もご指導・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。
FBアカウントをお持ちの皆様は、公式サイトも是非ご訪問ください。URL (<https://www.facebook.com/jica.pure.cs.project/>) (編集委)